

行政事業レビューシート (文部科学省)						
予算事業名	学術の国際協力事業の推進		事業開始年度	平成13年度		作成責任者
担当部署	科学技術・学術政策局		担当課室	国際交流官付		国際交流官 匂坂克久
会計区分	一般会計		上位政策	科学技術の国際活動の戦略的推進		
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-		関係する計画、 通知等	第3期科学技術基本計画(平成18年3月28日)		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度 以内)	国内外の大学等、関係機関との連携を図りつつ、我が国と諸外国との研究者交流状況等を把握し、国際共同研究を推進することを目的とする。					
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	国際共同研究を推進するため、国内外の大学等との意見交換を通じその問題点等を明らかにするとともに、国際交流推進施策に関する基礎資料となる国内の研究機関と諸外国との年間の研究者交流状況に関する調査等を実施。					
実施状況	平成21年度に実施を予定していた国際研究交流の概況調査は、最新の我が国の研究者交流状況の把握のために、より効果的な調査となるよう調査項目の見直しを実施したため、当初のスケジュールを変更し、平成22年度の調査と同時に実施することとした。そのため、平成21年度は国際研究交流に関する情報収集のための旅費等の支給のみを行った。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	1	1	1	96	-
	執行額	2	2	0.16		
	執行率	183.9%	193.8%	13.0%		
	総事業費(執行ベース)	2	2	0.16		
自己点検	支出先・ 用途の把握 水準・ 状況	旅費法に基づく必要書類や出張の結果報告により、用途や旅費支給の成果を把握している。				
	見直しの 余地	複数年度にわたり予算と執行が大きく乖離し続けていることから、事業構成も含めた見直しを検討する。特に、平成21年度の執行率を低下させる大きな要因となった国際研究交流の概況調査については、今後も調査項目の見直しや調査スケジュールの前倒しなどの改善を検討する。				
予算 監 ム 視 の ・ 所 効 見 率 化	<p>1. 事業評価の観点:この事業は、国際共同研究の推進に向けて研究者交流状況に関する調査等を行う長期継続事業であり、平成21年度は予算の執行率も低くなっている。</p> <p>2. 所見:長期継続事業であるにも関わらず、複数年度にわたり予算と執行が大きく乖離し続けていることから、事業内容を再点検した上で、いったん廃止し整理統合すべきである。その際、予算執行の実績を的確に把握し、予算との差異の要因等を十分精査しつつ、予算を縮減すべきである。</p>					
補 記	平成19年度、平成20年度は、当初予定していた以上の費用が必要となったため、他事業からの流用により執行率が100%を超過した。 平成21年度は、国際研究交流の概況調査の調査項目の見直しに伴い、当初予定していた調査を平成22年度の調査と同時に実施することとしたため、執行率が低下。					

[A]

文部科学省
(0.16百万円)

職員旅費
庁費

0.14百万円
0.02百万円

国際共同研究を推進するため、国内外の大学等との意見交換を通じその問題点等を明らかにするとともに、国際交流推進施策に関する基礎資料となる国内の研究機関と諸外国との年間の研究者交流状況に関する調査等を実施。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
しているかにつ
いて補足する)
(単位:百万円)

A.文部科学省			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
職員旅費	国際研究交流に関する情報収集のための旅費	0.14			
庁費	通信費	0.02			
計		0.16	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごと
 に最大の金額が支出さ
 れている者について記
 載する。使途と費目の
 双方で実情が分かるよ
 うに記載)